

- 問1 室町時代に形成された自治組織である「惣」が、その連帯を背景に、幕府や守護大名に対して借金の帳消し（徳政）などを求めて起こした集団行動を何といいますか。 (2022年 徳島県公立入試 類似)
1. 公事方御定書 2. 土一揆 3. 打ちこわし 4. 米騒動
- 問2 琉球の国王が中国の皇帝に対し、臣下としての礼をとって貢ぎ物を届けることで、国王としての地位や貿易の許可を認めてもらう国際的な関係を何と呼びますか。 (2018年 群馬県公立入試 類似)
1. 朱印船貿易 2. 朝貢 3. 勘合貿易 4. 日宋貿易
- 問3 15世紀の日本では、農民らが団結して行動を起こす「土一揆」が頻発するようになりました。1428年（正長元年）に起こった一揆において、参加した人々が土倉や酒屋を襲撃した主な理由として、最も適切な説明を選びなさい。 (2023年 山形県公立入試 類似)
1. 借金を帳消しにする「徳政」を幕府に認めさせるため。 2. 都市部への物資の輸送を担う「馬借」の権利を守るため。 3. 新しい貨幣の発行を幕府に中止させるため。 4. 特定の商品の専売権を持つ「座」を解散させるため。
- 問4 14世紀の中世日本において、現在の青森県に位置する日本海側の港を拠点とし、アイヌの人々との交易品を畿内へもたらすなど、北東北と中央を結ぶ遠隔地取引で栄えた豪族の活動拠点として正しいものはどれですか。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
1. 坊津 2. 十三湊 3. 堺 4. 博多
- 問5 14世紀の日本では、京都の北朝と吉野の南朝の二つの朝廷が対立する動乱が続いていました。この約60年に及ぶ内乱を、1392年に南朝と北朝の合一（南北朝の合一）を実現させることで終結させ、幕府の支配力を高めた室町幕府第3代将軍は誰ですか。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)
1. 足利義教 2. 足利尊氏 3. 足利義満 4. 足利義政
- 問6 室町時代には、農業技術の進歩によって農業生産力が大きく向上しました。その要因として、灌漑技術の向上や肥料の使用拡大とともに全国へ普及した、同じ耕地で一年の間に二種類の異なる作物（主に夏に米、冬に麦など）を栽培する農業方法を何といいますか。 (2022年 佐賀県公立入試 類似)
1. 二毛作 2. 単作 3. 三毛作 4. 輪作
- 問7 室町時代に行われた日明貿易において、正規の貿易船であることを証明し、当時「倭寇」と呼ばれた海賊と区別するために導入された「合い札」の名称を答えなさい。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
1. 飛脚問屋の鑑札 2. 割符 3. 勘合 4. 朱印状
- 問8 琉球王国の歴史や貿易の状況について説明した文として、最も適切なものを次のうちから選びなさい。 (2016年 神奈川県公立入試 類似)
1. 宗氏が対馬を拠点として、朝鮮半島から輸入される朝鮮人参などを日本本土に広めた。 2. 江戸幕府の鎖国政策のもとで、長崎の出島のみを窓口としてオランダや中国と貿易を行った。 3. 明治政府によって派遣された屯田兵が中心となり、北方領土の開拓と交易の拡大を進めた。 4. 尚氏が統治し、東南アジアや中国、日本を結ぶ海上交通の拠点として中継貿易で繁栄した。
- 問9 室町時代、借金に苦しむ馬借や農民たちが団結し、幕府や高利貸しに対して借金の帳消しを求めて起こした行動を何といいますか。 (2026年 福岡県公立入試 類似)
1. 一向一揆 2. 座 3. 土一揆 4. 惣村
- 問10 室町時代、北陸地方と京都を結ぶ交通の要衝であった近江国（現在の滋賀県）などを拠点とし、馬の背に荷物を載せて物資を運んだ運送業者を何と呼びますか。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
1. 問丸 2. 町衆 3. 馬借 4. 座
- 問11 1334年ごろに京都で掲げられた「二条河原の落書」が批判の対象とした、後醍醐天皇を中心とする政治体制の名称として正しいものはどれですか。 (2021年 和歌山県公立入試 類似)
1. 守護・地頭の設置 2. 版籍奉還 3. 建武の新政 4. 院政
- 問12 室町時代の対外関係について述べた次の文のうち、三代将軍足利義満が行った政策として正しいものはどれですか。 (2025年 神奈川県公立入試 類似)
1. 元軍による二度にわたる侵攻を退けた後、中国大陸との交流を一時中断した 2. 明の皇帝から「日本国王」に封じられ、朝貢の形式をとる勘合貿易を開始した 3. 琉球王国を仲介役として、東南アジア諸国との間で中継貿易を盛んに行った 4. キリスト教の広まりを警戒し、欧州諸国との貿易を平戸と長崎の二港に制限した
- 問13 室町時代初期において、三代将軍の足利義満が有力な守護を次々と討伐した背景には、幕府の権威を確立しようとする意図がありました。幕府がこのような守護への統制を行った最大の目的として、最も適切な説明はどれか。 (2025年 静岡県公立入試 類似)
1. 守護を各地の国司の下に配置し直し、土地の支配権を幕府から朝廷へと返還する手続きを円滑に進めるため。 2. 守護の持つ軍事力を解体し、公家による律令国家の仕組みを復活させて、中央集権的な政治体制を築くため。 3. 内乱を未然に防ぐとともに、各地で強大な勢力を持つ守護を幕府の体制に協力させ、将軍の支配力を高めるため。 4. 有力な守護に海外貿易の権利を独占させ、その利益を幕府が徴収することで、幕府の財政基盤を安定させるため。
- 問14 室町時代、足利義満によって始められた中国（明）との貿易では、倭寇と呼ばれる海賊による密貿易と区別するために、ある証明書が用いられました。この貿易の名称と仕組みについて述べたものとして正しいものはどれですか。 (2021年 宮城県公立入試 類似)
1. 平清盛によって大輪田泊が整備され、宋の貨幣を大量に輸入した日宋貿易 2. 勘合（勘合符）という合い札を使い、明の公認であることを証明した勘合貿易 3. 長崎に設置された唐人屋敷において、清の商人と限定的に行われた長崎貿易 4. 朱印状という海外渡航許可証を用いた、東南アジア諸国との朱印船貿易
- 問15 鎌倉時代から室町時代にかけて、交通の要地や寺社の門前などで、月に数回、決まった日に開かれた市場を何と呼びますか。ここでは、宋銭や明銭などの貨幣が盛んに使われるようになりました。 (2016年 京都府公立入試 類似)
1. 座 2. 問丸 3. 楽市・楽座 4. 定期市

答え合わせ・解説

問1	答え 2 土一揆	惣の結成によって農民の団結力が強まると、彼らは武器を持って集団で行動し、幕府に徳政令（借金の帳消し）の発布を求める「土一揆（どいつき）」を起こすようになりました。1428年の正長の土一揆などがその代表例です。「打ちこわし」は江戸時代の都市部で起きた暴動、「米騒動」は1918年の近代の出来事、「公事方御定書」は江戸時代の裁判基準を定めた法律です。
問2	答え 2 朝貢	琉球王国は大規模な独自の軍隊を持つ代わりに、中国（明や清）と「朝貢」と呼ばれる主従関係を結ぶことで、国際的な信用と安全、そして貿易の独占権を獲得しました。この関係は、単なる経済的なやり取りだけでなく、中国皇帝から「琉球国王」としてのお墨付きをもらうという政治的な意味合いが強く、琉球の国家としてのアイデンティティ形成に深く関わっています。
問3	答え 1 借金を帳消しにする「徳政」を幕府に認めさせるため。	室町時代の中期、凶作や疫病などで苦しむ農民や、物資の輸送を担う馬借たちが団結し、金融業者である土倉や酒屋を襲撃して借金の証文を奪うなどの土一揆が起こりました。彼らは幕府に対し、借金を無効にする「徳政令」の発布を強く求めました。当時の状況を物語る資料として、大和国（現在の奈良県）には「正長元年以前の負債はすべて無効である」という内容が刻まれた石碑が残されています。
問4	答え 2 十三湊	14世紀の北東北では、安藤氏（安東氏）などの豪族が津軽地方の十三湊を拠点に活動しました。ここではアイヌの人々から得たサケやコンブといった北方産品を、日本海交易を通じて近畿地方などの遠隔地へ運ぶ大規模な商業ネットワークが形成されていました。これは中世における日本の領域を超えた多様な交流を示す重要な史実です。
問5	答え 3 足利義満	室町幕府の第3代将軍である足利義満は、長らく分裂していた朝廷を一つにまとめる「南北朝の合一」を成し遂げました。これにより、足利尊氏の代から続いていた全国的な内乱が収束し、幕府による安定した統治体制が築かれました。彼は政治のみならず、金閣に代表される北山文化を築いたことでも知られています。
問6	答え 1 二毛作	鎌倉時代に西日本で始まったとされる二毛作は、室町時代に入ると水車の普及による灌漑技術の向上や、草木灰・下肥といった肥料の利用拡大、牛馬による耕作の普及を背景に、全国へと広がりました。これにより一年の間の土地利用効率が劇的に高まり、食料の生産量増加に直結しました。
問7	答え 3 勘合	足利義満が明の皇帝と国交を結んで始めた日明貿易では、明が発行した「勘合（勘合符）」という札が使用されました。この札は、当時東アジアの沿岸部で略奪を行っていた倭寇と、幕府が公認した正規の貿易船を明確に判別するための道具です。日本側と明側がそれぞれ半分に分けた札を持ち、港でそれらを突き合わせて照合したことから、この貿易は「勘合貿易」とも呼ばれます。
問8	答え 4 尚氏が統治し、東南アジアや中国、日本を結ぶ海上交通の拠点として中継貿易で繁栄した。	琉球王国は、中国大陸への朝貢を欠かさず良好な関係を保つ一方で、日本の室町幕府や東南アジアの諸国とも活発に交流しました。この広範なネットワークが、小さな島国であった琉球に大きな富をもたらしました。他の選択肢は、対馬の宗氏による朝鮮貿易や、北海道の開拓、江戸幕府の長崎貿易に関する記述であり、琉球王国の説明とは異なります。
問9	答え 3 土一揆	室町時代になると、農民たちは「惣」と呼ばれる自治組織を作って団結を強めました。凶作や重税、飢饉などが重なると、彼らは高利貸し（酒屋や土倉）を襲って借金の証文を破棄させたり、幕府に徳政令（借金の帳消しを命じる法令）の発布を求めたりしました。これを土一揆と呼びます。
問10	答え 3 馬借	室町時代には農業や手工業の発展に伴い、商品流通が活発になりました。特に近江国の大津や坂本は、琵琶湖の水運と陸上交通を繋ぐ拠点として栄え、ここで馬を利用して荷物を運んだ専門の運送業者が馬借です。彼らは単なる輸送だけでなく、後に徳政（借金の帳消し）を求める一揆の先導役となるなど、社会的に大きな影響力を持ちました。
問11	答え 3 建武の新政	鎌倉幕府を倒した後の1334年に、後醍醐天皇が公家中心の政治を復活させようとして始めたのが建武の新政です。この政治は武士の期待を裏切る内容が多く、わずか数年で足利尊氏らによって崩壊することになります。
問12	答え 2 明の皇帝から「日本国王」に封じられ、朝貢の形式をとる勘合貿易を開始した	足利義満は、巨大な帝国であった明との貿易による利益を重視し、明の皇帝に対して臣下の礼をとる「日本国王」の称号を受け入れました。これにより、形式上は中国の皇帝に貢ぎ物を捧げる「朝貢」という形での貿易が始まりました。選択肢にある元軍への対応は鎌倉時代の北条時宗、貿易港の制限は江戸時代の幕府、琉球王国による中継貿易は主に尚氏による統治下の出来事であり、義満の政策とは異なります。
問13	答え 3 内乱を未然に防ぐとともに、各地で強大な勢力を持つ守護を幕府の体制に協力させ、将軍の支配力を高めるため。	室町幕府の成立当初は南北朝の動乱が続いており、将軍の権力基盤は極めて不安定でした。山名氏や大内氏のように複数の国を支配する有力な守護は、時として幕府を脅かす存在となりました。足利義満は、明徳の乱や応永の乱などを通じてこれら有力守護の勢力を削減することで、幕府内部での内乱を防ぎ、守護を幕府の統制下に置くことに注力しました。これにより、各地の守護が幕府の秩序に従い協力する体制を築き、将軍を中心とした安定的な統治を目指しました。
問14	答え 2 勘合（勘合符）という合い札を使い、明の公認であることを証明した勘合貿易	室町時代の対外貿易において、当時の中国である明は倭寇を防ぐために正式な貿易船のみを認める方針をとりました。日本側は「勘合」と呼ばれる合い札を持参し、明の役人が保管する札と照合させることで、海賊ではない正式な使節であることを証明しました。これにより、安全かつ確実な貿易が行われるようになりました。
問15	答え 4 定期市	鎌倉時代には月に3回開かれる三斎市、室町時代には月に6回開かれる六斎市といった市場が各地で開かれました。これらは特定の日に開催されるため、まとめて定期市と呼ばれます。当時は日本で独自の貨幣が鑄造されておらず、中国から輸入された貨幣がこうした市場を通じて全国的な流通を支えました。